



1・2 風船セレモニーでオープンをお祝い

3・4 わらすっこルーム内の図書や遊具の一部は、企業などから寄贈されました



3



5

6

5・6 新しい遊具「クライミングウォール」を設置。セレモニーで、お遊戯を披露した園児が初遊び！

7・8 隣接するおやこつろぎスペースでは、テーブル席での飲食も可能。図書コーナーの本も充実し、親子でより楽しめるように改築



7



9

生まれ変わった 子育て支援の拠点



子育て支援の拠点「元気わらすっこセンター」が5月2日にリニューアルオープン。式典では、白岩・松崎保育園の園児たちが元気にお遊戯を披露したほか、内覧会も行われました。施設の概要と式典の様子をお伝えします。

元気わらすっこセンター リニューアル！

子育て支援の拠点「元気わらすっこセンター」の改修工事が完了し、5月2日にリニューアルオープンを祝う式典が行われました。式典には、関係者ら約150人が出席。白岩・松崎保育園の園児が元気にお遊戯を披露したほか、リニューアルを祝う風船セレモニーが行われました。園児や関係者が風船を空に放つと、色とりどりの風船が舞い上がり、生まれ変わった子育て支援の拠点を華々しく飾りました。同センターは昨年12月から改修に着手。遠野市保育協会の事務所を2階に移設してわらすっこルームを拡張。クライミングウォールなどの新遊具を導入しました。そのほか、相談室を3室新設。全館の照明をLED化するなどの工事を行いました。

本市は、「子育てするなら遠野」をスローガンに掲げ、きめ細やかな子育て支援に取り組んでいます。▽市内全ての小学校区に放課後児童クラブを設置▽学童保育の無料化▽保育料の半額負担などが行われています。今後は、遠野わらすっこプランに基づき、順次保育園や児童館などの整備に取りかかる予定です。

Interview

天気の良い日に最適な遊び場

尾崎 綾 さん =松崎町=

写真/綾さんに抱っこされる運くん(5)

以前よりも、わらすっこルームが広がったので、子どもたちが体を思いっきり動かして楽しそう。外で遊べない天気が悪いときにも最適な遊び場です。



身近な屋内の遊び場で便利

高田 伶美 さん =六日町=

左から/長男の大輝くん(3)、次男の遼汰くん(1)

滑り台や積み木があって、いろんなおもちゃで遊べました。休みは家族連れが多くてにぎやかでしたが、平日は親子でゆっくり過ごせました。



Info.

児童館・児童クラブへ、遊びに行ってみよう！

市内11カ所にある児童館・児童クラブも、子育て拠点として力を入れています。親子でのんびりふれあいながらリフレッシュする場として、子育て支援サークルを実施。ちょっとした悩み相談や子ども同士の友達作りに最適です。

県内では先駆けて、利用料金を無料化。事前に利用申請書を提出すれば、誰でも利用することができます。ぜひご利用ください。

- ★利用時間 8時30分～17時15分
- ★利用対象 どなたでも利用できます(幼児は、保護者同伴でお願いします)
- ★利用料金 無料
- ★その他 利用する際は「利用申請書」を提出
- ★問い合わせ 遠野市保育協会 (☎ 62-9256)



地域のなかの子育て応援団

家族形態の変化により、周囲に支援者や相談できる人がいない「孤育て」が増えてきています。人間関係の希薄化は、大人だけでなく子どもにとっても影響を与えます。孤独な子育てを防ぐため、奮闘している地域の子育て応援団を紹介。



地域ぐるみで子育て

かつて、子どもは大家族の中で育つのが当たり前でした。しかし現在は、共働き家庭、ひとり親家庭の増加などで、子育て環境は大きく変化しています。身近に頼れる人がいなくて、子育てに孤独を感じる保護者は少なくありません。そんな子育て家庭の強い味方になってくれる子育て応援団が、市内で活動しています。

子どものことを考えた場所なので、絵本やおもちゃが豊富。安心して子どもを遊ばせることができます。職場の転勤などで初めて遠野に住んで子育てをしている人にとっては、子育てについて話せる知り合いが増えるというメリットがあります。一方で、地元で子育てをしている人にとっても、育児の悩みやストレスを共有することができます。また、地域の大人と接することで、子どもたちの社会性が育まれます。

世の中には多くの育児本が出版されていますが、本の通りにいかないのが子育て。ひとりで悩まず、地域を頼ってみてはいかがでしょうか。

子どもの笑顔のため

子どももママも私も最初は緊張。でも、預かり回数が増えてくると、信頼関係ができて笑顔を見せてくれるようになります。まずは時間をかけて話を聞き、お互いをよく知るよう心掛けています。子どもの笑顔のため、大切にお預かりします。



まかせて会員
藤澤 多紀子さん
＝上組町＝



1・2_まかせて会員も子どもたちに癒されています 3_おねがい会員が安心して託児できるよう、アドバイザーと一緒に会員同士が打ち合わせを行います 4_専門研修を受けてからお預かりします



ファミリー・サポート・センター事業

ファミリー・サポート・センター事業(通称:ファミサポ)は、地域で子育てを応援する会員制の取り組み。こども政策課が窓口となり、子育てを手伝ってほしい「おねがい会員」と子どもを預かってくれる「まかせて会員」を取り持ちます。託児の際は、近くの会員同士を紹介。ファミサポ利用時に移動の負担が少なく、気軽に託児をお願いできます。まかせて会員の登録にあたっては専門研修、登録後は定期的にスキルアップ研修を受講するので、安心して子どもを預けることができます。

みんなで夕ごはん in ちょボラ

遠野市社会福祉協議会が主催している「みんなで夕ごはん」は、地域の人たちが気軽に遊びに行ける食堂です。食事ができるだけでなく、ボランティアや職員、地域の人たちと一緒に食卓を囲みながら何気ない会話を楽しめる場所。食事の後は、ボランティアが勉強を教えたり、自由コーナーにあるおもちゃで子ども同士遊んだり思い思いの時間を過ごすことができます。子どもたちが遊んでいる間、親同士もおしゃべり。大人も子どもも息抜きできる居場所のひとつになっています。

1_みんなで楽しく夕ご飯 2_食べ終わったら、自分でお片付け 3・4_食事の後は、保護者同士はおしゃべり。子どもたちは遊んだり宿題したり、思い思いに過ごします



世代間交流の場所

子どもから高齢者まで、世代を越えて交流できる場所づくりに取り組んでいます。この食堂は、食材提供者やボランティアなど地域の人に支えられての運営。取り組みに賛同してくれる人も募集していますので、気軽に遊びに来てください。



遠野市社会福祉協議会
地域福祉課
高橋 洋子課長

Interview

くさめき じゅり
釘拔 寿梨 さん
＝早瀬町＝

左から/長女の舞凜ちゃん(7)、次男の涼晴くん(1)、長男の快晴くん(8)



親子でリフレッシュ

友達と遊べるのが楽しいみたいで、子どもたちから行きたいとせがまれます。親同士もリフレッシュにつながります。学校行事などの情報交換の場になっています。毎月楽しく参加しています。

date

日時 毎月第1水曜日
17時30分～19時30分
場所 ボランティア・市民交流
サロンちょボラ
料金 高校生から:300円
中学生まで:100円
メニュー お楽しみ♪
※セルフサービスになります
問い合わせ
遠野市社会福祉協議会
(☎62-8459)

date

対象年齢 小学6年生まで
利用方法 ①事前に会員登録をして、利用を申し込む ②会員同士とアドバイザーで顔合わせ ③まかせて会員の自宅に託児(原則) ④お迎えの際に、実費と利用料金を支払う
利用料金 1時間500円(時間帯で変動)
問い合わせ 市こども政策課
(☎62-0189)

Interview

地域の人に預けられるので安心

1時間単位で預かってくれるので、すごく助かっています。まかせて会員さんは事前に研修を受けているので信頼できますし、すぐそばにいる地域の人に預かってもらえるので安心できます。

おねがい会員
ちはる
作山 千春 さん
＝早瀬町＝
左から/長女の結南ちゃん(2)、次女の純風ちゃん(8カ月)



子育てを私たちも応援します

市は「子育てするなら遠野」をキャッチフレーズに、子育て応援部を新たに設置。遠野の宝である子どもたちが、元気に成長できるよう関係機関が連携しながら子育てを応援していきます！

4つの機関と、健康福祉の里が連携して子育てを応援しています

遠野市保育協会

保育園などでの預かりだけでなく、「わらっぺホーム」や「まなざし」の運営を行っています。就学後の生活がスムーズに進められるよう、学校や市と連携して取り組んでいます。

教育委員会

今年度から未来を担う子どもたちに、夢を持つことの大切さを伝えるため、「夢の教室」を中学生にも拡大し開催。また、今年度から市内の高校に通う生徒へ通学支援も行っています。

子育て応援部

少子化対策、子育て支援のさらなる充実を目指して、子育て応援部を新設しました。「こども政策課」「母子安心課」「総合食育課」が各機関と連携し、切れ目ない子育て支援を行っています。

総合食育センター

心と体の健康づくりのため、地元の食材を使った安心安全な給食を提供。生産者や関係者と楽しく共食しながら、郷土食の継承・理解につながる「交流すまいる給食」なども実施しています。

健康福祉の里

検診や予防接種などで、子どもたちの健康を守ります。

子育てへの思いを声に



わらすっこ支援委員会
松田 希実 委員長

「子育てするなら遠野」のキャッチフレーズは、言葉だけが一人歩きするのではなく、市民の声を反映したものでなければなりません。地域全体の、子育てへの思いを声にして、そして形にしていきたいです。

私たちも、応援します！



市教育委員会関係機関
共通ロゴマーク

幸せの四つ葉のクローバーのように、遠野の子どもたちが幸せに育つようにという願いが込められています

Info.

子育て応援団募集中！

ファミサポの託児に協力してくれる「まかせて会員」、事業運営のために参加してくれるボランティア、「わらすっこプラン」を応援してくれる事業所など、子育てを支えてくれる応援団を募集しています。興味のある人は、下記まで問い合わせください。

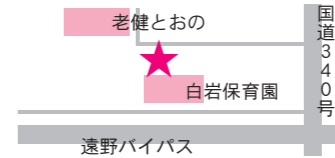
市こども政策課 ☎62-0189(直通)



地域全体で子育てを支え合う
市は、今後も子どもを産み育てることに夢が持てるまちづくりを行っていきます。そのためには、行政だけでなく、事業者や地域の人たちといった子育て家庭に寄り添える人の協力が不可欠です。未来の希望であり、宝である子どもたちが健やかに成長できるように、地域全体で子育てを支え合える環境・仕組みをつくっていきましょう。

子育て支援センターまなざし

白岩保育園の隣にある「まなざし」は、家庭で子育てをしている親子を支援する施設。子どもを自由に遊ばせることができるだけでなく、子育て相談や保護者間の交流を深める取り組みも行っています。定期的に子育てボランティア「クレヨン」の会員が読み聞かせも実施。息抜きがてら、立ち寄ってみてください。



↑カーテンで仕切れる授乳室も完備
←子育てについて話したり、みんなで遊んだり、ゆったりした時間を過ごせます

date

- 対象児童 未就学児(保護者同伴)
- 利用時間 平日9時~16時30分
- 活動内容 子育てサークルの活動支援、育児相談、絵本の貸し出し
- 問い合わせ 遠野地域子育て支援センターまなざし (遠野市松崎町白岩13-42-1 ☎60-1187)

Interview



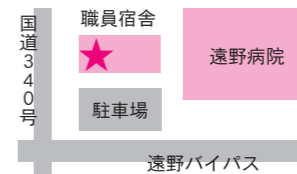
菊池 みゆきさん =東穀町=
写真/みゆきさんに抱っこされる、このみちゃん(7カ月)

ママ同士悩みを共有

初めての子で不安もありましたが、まなざしに来ているママたちと悩みを共有して、気持ちが楽になりました。ママ友や保育士の先生もいるので、安心して遊ばせられます。

病児等保育施設 わらっぺホーム

突然の発熱など、集団保育が難しい子どもを預かってくれる「わらっぺホーム」。利用には医師の診察が必要ですが、2~3日前に受診していれば利用が可能。体調の変化にも遠野病院小児科医師が巡回してくれるので、安心です。



私が巡回します！
県立遠野病院 小児科医師 福田 邦夫先生



小児科医による巡回



救命救急講習で万が一にも備えます

date

- 利用方法 事前登録と、かかりつけ医師の診察が必要
- 対象児童 生後6カ月~小学6年生
- 保育時間 平日8時~18時
- 定員 3人
- 保育料金 1日2,000円 (4時間未満1,000円)
- 持ち物 利用申込書、依頼連絡票、母子手帳、かかりつけ病院の診察券、お弁当、おやつ(2回分)、飲み物、着替え、おしぼり3枚など
- 問い合わせ 遠野市病児等保育施設「わらっぺホーム」(☎62-8851)

Interview

佐々木 千聖さん =早瀬町=
写真/千聖さんに抱っこされる夏翔ちゃん(8カ月)

いざというとき心強い

私も夫も、実家が市外。頼れる人がそばになくて不安になっても、わらっぺに行けば専門知識がある看護師さんやお医者さんがいるので、いざというとき心強いです。

